#05_いっぱい甘えてくださいね♡ お隣さんと密着汗だく交尾

//くるみの部屋

「んちゅっ...ちゅっ...んふっ♡ ちゅっ、ちゅぷ...ちゅっ♡

はあ...ふっ♡ ちゅっ、ちゅっ♡ ちゅうっ♡」

「んんっ♡ お隣...さんっ♡ んちゅっ♡ ちゅっ...ちゅぷっ...ちゅうっ♡」

「んふっ♡ 今日もたくさん頑張りましたね～♡

ちゅっちゅうっ...れるれる...れるちゅっ♡」

「えらい...れすよお♡ ちゅぷ...れりゅっ♡ ちゅぷれちゅっ♡」

「ぷはあ...♡」

「ふふっ...なんだかこうしてお隣さんを癒やすのも、

習慣になっちゃいましたね♡」

「力になれて嬉しいです♡」

「それに...私も...たくさん気持ち良くしてもらっちゃってますから～♡」

「はあ、はあ...お隣さんとするキス...癖になっちゃってます～♡」

「んっちゅっ♡ ちゅぷっ...ちゅっ♡ ちゅううっ♡」

「はふう...♡ んちゅ、れるれる...れるちゅっ♡ ちゅぷっ♡

はあふう♡ れるれる、れうっ...ぷちゅっ...ちゅぷっ♡」

「んっ...ふう...ふう♡ ふふっ♡」

「お隣さん、私の体に触るの、躊躇わなくなってきましたね♡」

「おっばいやお尻に...自然に手が伸びちゃってて...」

「いいんですよ♡ お隣さんが私の体を求めてくれてるってことですもん♡」

「嬉しいです♡ どんどん、触ってください♡」

「私も...その分、お隣さんの体、ペタペタしちゃいますから♡ ふふっ♡」

「んっ...ふっ...ちゅっ♡ ちゅっ♡

んんっ...れるれる、れるちゅっ...ちゅぶぶ...

「はふう♡ ちゅっ...れるれる、ちゅぶ...んふっ、れろれる...

れるぶちゅ...んんっ♡」

「ちゅ...ちゅぶっ♡ ちゅぶちゅっ...あふっ...んちゅっ、れる...れる...

ちゅうう♡」

「んっ♡ んっ♡ はあうっ...ちゅっ...ちゅっ...れるれる...

れるちゅっ、じゅちゅう...

「んふっ...そこ♡ 好き...んんっ♡

ちゅっ...ちゅうっ...れる、れるれる...んんっ♡」

「ふう...んっ♡ はあ、はあ...んちゅっ♡ ちゅ...ちゅうっ♡

んっ♡ んっ♡ ん、れるれる...れろちゅっ♡」

「はあ、はあ...お隣...さん♡ 気持ちいい...気持ちいい...ですねえ♡」

「んっ...私...お隣さんに触られてると...体、熱くなって...疼いて...んんっ♡」

「ちゅうっ♡ んんっはあ、はあ♡ ちゅぶっ...ちゅっ♡ んんっ♡

はふう♡ んふっ...れるれる...♡」

「んんっ♡ んちゅっ、ちゅっ♡ はうう...♡ んんっ♡

はあ、はあ...んんっ♡」

「もっと、もっとお♡ ちゅう...♡ しましょう？」

「んっ...！ ちゅっ！ んんっ！ れるれる♡ ふーっ♡ ふーっ♡

んちゅう、れる、れる...れるちゅっ...ぷちゅう♡」

「ぷはあ...はあ、はあ...♡ んっ...」

「そろそろ、服...脱いじゃいましょうか♡」

「肌で触れ合った方が...気持ちいいですから♡」

「んっ...はあ、はあ...ふう...んう♡」

「早く脱ぎたくて...じれっなくなっちゃいますね♡ んんっ♡」

「はふう...んっ...」

「お隣さん♡」

「ふう、温かい...ですね♡」

「こうして抱きついて...体温を伝え合うの...好きです♡」

「お隣さんを感じられて...私をお隣さんに感じさせられて...ん♡」

「落ち着くというか...はふう♡」

「んっ...♡」

「でも、お隣さんは、落ち着くだけじゃない...みたいですね♡」

「ここが...こんなにカチカチになってます♡」

「ん...私も...もう、濡れちゃってはいるんですが...♡」

「はあ...はあ...ふう...」

「今日もたくさん...触れ合えようね♡」

「お隣さんのしたいこと...」

「私がしてあげたいこと...」

「全部...ぜーんぶ、しちゃいましょう？」

「ふっ...ちゅっ♡」

「ふふっ...♡」

「はあむ♡ ちゅっ、ちゅっ...ちゅうう...ちゅぷっ...んふっ...れる...ちゅ...」

「ちゅっ...ちゅぷう...れる、れる...れるちゅっ...ちゅぷう♡

れるれる...れるりゅ〜...♡」

「ふう...ふう...お隣さんのここ、耳を舐められる毎に、固くなっててますよお♡」

「ちゅっ...れるれる...シコシコしながら...舐めてあげますからね〜♡」

「れる、れるちゅっ...ちゅぷ...れるれる...れるちゅっ♡ はあ、はあ...んふっ...」

「おちんちん気持ちいいですか〜？ ちゅっ...れるれる...れるちゅっ♡

ちゅうっ...れるれる...んじゅれりゅ...ぷちゅ...はあ、はあ...♡」

「耳...真っ赤になってます♡ 可愛い♡」

「んちゅっ、れるれる...れる、れるちゅっ...じゅりゅ...れるれる...」

「はあ...はあ...れるちゅっ、ちゅぷ...んっ♡

んふっ、れるう〜んじゅ、れる...れる、れりゅ...れるぷちゅ♡」

「たーくさん、気持ち良くなっちゃいましたね♡」

「ふふっ、もう片方の耳も...気持ち良くしてあげちゃいますね～」

「んっ...ふう、ふう...」

「おちんちんの先っぽから、もうトトロのお汁が出ちゃってますね～？」

「こっちのお耳を舐めたら、もっと出てきちゃうんでしょうか？」

「ふふっ♡ いいですよ♡ たくさん、気持ち良くなってくださいね♡」

「はあむ♡ ちゅっ、ちゅっ...ちゅうう...んふっ...ちゅっ、ちゅう...ふう～♡」

「れる...れるちゅっ...んふっ、はあ、はあ...ちゅっ...れるちゅっ♡ れるれる...」

「ふう...ふう...お隣さん、興奮してくれて嬉しいです...」

「んっ...でも、こんなに密着してるので...私も...乳首が擦れたりして...

気持ち良くなってますよ♡」

「ふう、んっ♡ ふふっ興奮...しちゃいました？ 私もです♡」

「はむっ♡ れる、れるっ...ちゅじゅ...れる...れぶちゅっ♡ れるれる...」

「んちゅっ...はあ、はあ...お隣さん♡ 好きですよ♡

ちゅっ、れるれる...れるちゅっ...」

「だ～い好き♡ ちゅっ...れるれる...れるちゅっ...ちゅううっ...♡」

「んちゅっ、れるちゅっ...ちゅぷう♡ れろ...れろ...れろお...んふっ♡」

「はあ...はあ...すき...ちゅっ♡

れるれる...れるぷちゅっ...んふっ...れるれる...ちゅっ、ちゅむっ...ちゅう♡」

「ふう〜〜♡」

「はあはあ...ふふっ♡ おちんちん、すっごく大きくなっちゃいましたね♡」

「ん...そろそろ、挿れちゃい...ますか？」

「私も...その...そろそろ...したいですし〜」

「大好きなお隣さんに...たくさん、どちゅどちゅしてほしいんです♡」

「んっ♡ お願いします♡」

「んっ...ふっ...！ ちゅっ♡」

「んんっ♡ ちゅっ、ちゅうっ...れるれる♡ はあ、お隣さん...♡

んちゅっ、れるれる...れるちゅっ...ふう♡」

「んちゅっ、ちゅっ...はうっ...はあ、はあ...んふっ、れるれる...

れるちゅっ...んちゅ...んんっ♡」

「あっ♡ んんっ♡」

「ふう...ふう♡ お隣さあん♡」

「来て...来てくださあい♡」

「お隣さんの、おちんぽで...私のぐちよぐちよくなつたおまんこ♡

たくさん突いてください♡」

「んっ...ちゅうっ...！ ふふっ♡」

「はあ、はあ...ふう...」

「はっ...ふっ...んんっ♡」

「お隣さん...」

「私に...お隣さんを癒やさせてください♡」

「そして...私を...たくさん、気持ち良く...してください♡」

「ありがとうございます♡」

「んんっ♡ はううう♡」

「はあ、んっ♡ 入った...お隣さんのおちんちん...んんっ♡ 奥までえ♡」

「んんっ! ふうんっ♡」

「はあうっ♡ あっ! あんっ! あっ! ふう♡

はあ! はあ、んっ! んんっ!」

「お隣さんっ...んっ! はあ♡ ああっ! あっ! あっ!

ああうっ! んんんっ!」

「はあ、ふう...んっ! あんっ! はあっ...はあ! うっ...んっ、ふうう...♡」

「これ...最初からっ♡ んんっ♡ 気持ちよくなって...ましゅう...♡」

「はあ...んっ! んっ! んんっ! わ、私い...んんっ! ふう...んっ!」

「お隣さんと...こうするようになってから...んんっ!

どんどん...感じやすく...なってえ...」

「んんっ! あっ! あっ! あううっ! んふう...! はあっ!

はあっ! んんっ!」

「すぐにつ...! はあっ...あああっ! イックう...んんっ♡」

「んんっ♡ はあ♡ はあ♡ お隣さんっ...んんっ♡」

「好き...好きですう♡ はあう...んんっ♡ それ...好きい...はあうあつ...！」

「私の気持ちいい所...何度も、ドチュドチュっしてるのお...好きい♡」

「もっと、もっと...お隣さんをお...んんっ♡ 感じ...させてくださいい♡」

「私も...おまんこっ...んんっ！ 締めて...お隣さん専用の...んんっ！」

「気持ちいい...おまんこに...しますからあつ♡ ああつ♡

はっはっはあ...うう♡」

「んんんっ！ ふうっ♡ んんっ！ んあつ！ あつ！ あああつ！ 激しい...♡ はあ、

はあうっ！ んっ！ んっ！ んふうっ！」

「あああ♡ 奥...おちんちんが...奥のトコ...当たってますう♡

はあ、はあ♡ はふっ...んんっ♡」

「お隣さん...気持ちいいですかあ？ んんっ♡

私の...おまんこ...気持ちいいですかあ？」

「んんっ...はあうっ...はあつ、んんっ♡ 嬉しい...ですっ♡

ああっ...ん！ はあ、ふうう♡」

「ふう...ふうっ...んんっ！ あつ！ あつ！ ああつ！ あふうっ...んんっ♡」

「お隣さんっ...♡ キス...キスしましょう♡」

「さっきみたいにギュっしてえ...熱を感じながら...んんっ♡

キス...しましょう♡」

「んんっ！ 来て...ください♡」

「んんっ♡ ちゅっ...ちゅうっ♡」

「ちゅぷっ...ふう、んんっ♡ ちゅっ...ちゅうっ...はふっ...んんっ♡

ちゅっ、ちゅうっ...♡」

「ちゅう、れるれる...んんっ♡ はあ、はあ...好き...♡

好き、好き...んちゅう...れるれる...れるちゅぷ♡」

「お隣さんっ...んんっ♡ ちゅ、れるれる...れるぷちゅうっ...♡」

「はあ、はあ...ふう...んんっ♡」

「お隣さん、好き...好き...好きですう♡ はあ、はあ...んんっ♡」

「お隣さんの全部が好きです...♡ あっ、あっ、あうう...♡」

「お隣さんの全部を受け止めてえ...んんっ♡ あげたい...んですう♡」

「んふう...んんちゅ、れるれる...れるちゅっ...ちゅぷちゅぷう...れるれる...」

「れる、れる...んんっ♡ んんんっ♡ れる...れるちゅっ...れるれろお♡」

「...大好き♡」

「ふう...ふうう...んんっ♡ はあ、はあ...ふふっ♡」

「そろそろ...みたい、ですねえ♡ んんっ♡ あふっ...ああ、んんんっ！」

「はい...このまま、中に...お願いします♡ んんっ、んんんっ♡」

「はあ、はあ...んんっ！ はい、お隣さんの全部っ...んんっ受け止めたい...

ですからあ♡」

「ちゅっ...ふっ♡」

「だから...出してください♡ お隣さんのっ...んんっ♡

精液...私の中に...全部...ぜーんぶ...」

「んちゅう、れるれる...れるちゅっ...ちゅぶ...ふう、んんっ！

れるれる...れるう～」

「んんっ♡ んっ♡ んっ♡

れる、れるちゅっ...ちゅぶ...ぶちゅ...ふう、ふう♡」

「はあうあっ！ んっ！ んっ！ はあ...んんっ！

精液...のぼってきたんですね♡」

「はいっ、出して...出してください♡

1番気持ちのいいお射精、しちゃいましょう♡」

「私のおまんこに全部、全部...ぴゅっぴゅしちやって...くださ～い♡」

「んっ...はあ、はあ...イキましょ...イキましょ...

はあ、はあ...ほら、ほらあ、イキますよお♡」

「せえのっ！ ぴゅっぴゅっぴゅ～っ！」

「んんっ！ んんあっ！ 来た・来たあ♡」

「はあ、はあ...んんんんっイツクっ～～～っ♡」

「あああ...ああうっ...んっ！ んっ！ んんんっ！」

「まだ...出て...1番奥に...当たってますう♡」

「んんっ♡ はあ、はあ...んっ！ んふう...♡」

「お隣さん...」

「ありがとうございました♡」

「...ちゅっ♡」

「ふふっ...♡ 好きって...たくさん言っちゃいました♡」

「私はお隣さんが...大好きですから♡ どうしても...止められなくて...」

「こうして汗だくになりながら...んんっ♡ エッチができて...幸せです♡」

「好きです...お隣さん♡」

「好き...好き...大好き♡」

「...ちゅっ♡ ふふっ...♡ ふう...」

「それにしても...ずっとギューってしてたから...」

「本当に、汗かいちゃいましたね...」

「お隣さんは、大丈夫ですか？」

「お風呂でもわかそうと思うんですが...」

「もちろん、一緒に入るのも、大歓迎ですよ♡」

「あっ♡ ふふっ♡」

「想像...しちゃったんですか♡ ピクって、反応しました♡」

「私は...どっちでもいいですよ？」

「すぐにお風呂を用意しても...もう1回しても♡」

「あ、お風呂でするのでも...大丈夫ですけど...」

「どれがいいですか？」

「はい♡ わかりました♡」

「じゃあ、そうしましょうか♡」

「ん...ちゅっ♡」

「...ふふっ♡」